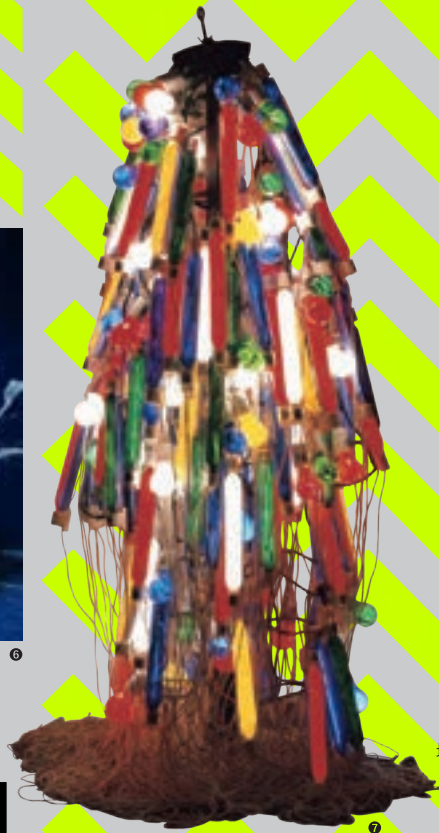
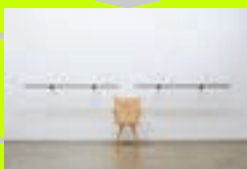




穀嘯
 青山悟
 赤松音呂
 秋山邦晴
 飯川雄大
 池田亮司
 諫山元貴
 石田尚志
 伊藤隆康
 井上涼
 宇川直宏
 大辻清司
 小沢剛
 加藤翼
 金沢健一
 河口龍夫
 北代省三
 工藤哲巳
 鯉江良二
 鴻池朋子
 後藤映則
 さわひらき
 下道基行
 城之内元晴
 関根伸夫
 高松次郎
 多田美波
 田中敦子
 田中信太郎
 束芋
 中西夏之
 名和晃平
 藤本由紀夫
 松本俊夫
 宮島達男
 宮永愛子
 森村泰昌
 ヤノベケンジ
 山口勝弘
 山本圭吾
 吉田克朗
 ヨシダミノル
 吉村益信

関連イベント

アーティストトーク

①『『動くアート100年史』～キネティックアート、ライトアート、インターメディア、エクスパンデッドシネマ、ビデオアート、メディアアート、そしてXRからAIまで』

映像作家、グラフィックデザイナー、VJ、文筆、更にはライブストリーミングスタジオ「DOMMUNE」の運営と、多岐に活躍する現“在”美術家・宇川直宏氏に「動く」アートの歴史と展開についてお聞きます。

10月11日(日) 13:30～15:00(13:15開場)

講師:宇川直宏(本展出品作家) 聞き手:原久子(当館アートアドバイザー)

会場:1階講堂 定員:先着100名 無料・申込不要

②「旅から定住へ 直島に住みながら活動すること」

出品作《津波石》をはじめ映像作品の展示方法や、2019年より移住した直島での活動・制作等についてお話しいたします。

10月31日(土) 14:00～15:00(13:45開場)

講師:下道基行(本展出品作家)

会場:1階講堂 定員:先着100名 無料・申込不要

記念ライブ

「Epicurism of Space Universe 2026 空間の美食家 2026」

サウンド・パフォーマンス・ユニット(現代家族)による音楽ライブ。ヨシダミノル《シンセサイザー・ジャケット》を演奏します。

10月24日(土) 14:00～(1時間程度)

出演:現代家族(吉田みどり、吉田省念、吉田朝麻)

会場:1階エントランスホール 無料・申込不要

アートアドバイザー講座vol.15

「美術批評から読む 「動く」作品の展覧会史」

本展出品作品を中心に「動く」作品が発表された当時の美術界の様相や評価、その後現在までの保存やアーカイブについて対談します。

11月14日(土) 14:00～(1時間程度)

講師:伊村靖子(国立新美術館主任研究員)、原久子(当館アートアドバイザー)

会場:1階講堂 無料・申込不要

ギャラリートーク

学芸員:10月10日(土) 11:00～

ボランティアcivi:会期中の日曜・祝日(ただし10月11日を除く)各14:00～

会場:2階展示室 ※要観覧券・申込不要

「見る、聞く、触れる鑑賞会」

音が出たり、触って体験できたりする作品を中心に対話しながら鑑賞します。

11月8日(日) 11:00～(1時間程度)

会場:1階エントランスホール、2階展示室

※要観覧券・申込不要(1階エントランスホールに直接お越しください。)

※目が見えない・見えにくい方も楽しんでいただけるイベントです。

特別上映会

会場:1階講堂 定員:各先着100名(各15分前開場) 無料・申込不要

①『田中敦子 もうひとつの具体』(1998年、監督:岡部あおみ、45分)

10月10日(土)、11月21日(土) 各14:00～

②『石の詩』(1963年、監督:松本俊夫、TBS、25分)

10月10日(土)、11月21日(土) 各15:00～、11月13日(金) 18:00～

11月21日(土)は上映後、阪本裕文氏(NPO法人戦後映像芸術アーカイブ)による解説会を開催します。

エントランス・ミニコンサート「トッカータ祭り」

11月7日(土) 13:30～14:10

出演:(ピアノ)森西梓、道久明子、平田奈夏子、(ピッコロトランペット)濱田華楓

会場:1階エントランスホール 無料・申込不要

曲:「トッカータ長調BWV916」他

謎とき! 美術館からの挑戦状!

展示作品をヒントに美術館から出された謎を解明しましょう!最後まで謎を解けた人には、オリジナルグッズをプレゼント!

日時:会期中いつでも(なくなり次第景品プレゼントは終了します。)

参加方法:2階展示室前に1つ目の謎を示したシートを設置していますので、自由にご参加ください。

参加対象:どなたでも(要観覧券・高校生以下は観覧料無料)

ふらっとアート「動くおもちゃをつくろう」

日時:会期中いつでも 場所:中2階子どもアートスペース(こども+)

「びじゅチューン!電気さえあれば」特別上映

NHK Eテレの大人気番組「びじゅチューン!」より、井上涼さんが《電気服》をテーマに制作した「電気さえあれば」を会期中、1階エントランスホールとランチギャラリーでループ上映します。

日時:会期中開館時ずっと



©NHK・井上涼 2026

特別展

動く!展

光と音と運動の芸術

Art that Moves!
the Art of Light, Sound and Movement



特別展「動く!展 ―光と音と運動の芸術―

主催 | 高松市美術館 助成 | 芸術文化振興基金

休館日 | 月曜日(ただし、10月12日(月・祝)、11月23日(月・祝)開館、10月13日(火)、11月24日(火)休館)

開館時間 | 9:30-17:00(ただし、金曜日、土曜日は19:00閉館/入室は閉館30分前まで)

観覧料 | [一般]1,200円(960円)、[大学生]600円(480円)、[高校生以下]無料

*〔 〕内は20名以上の団体料金

*身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料



2026 10.10-11.29
sat. ~~~~~ sun.

高松市美術館
TAKAMATSU ART MUSEUM



大辻清司「円形劇場形式による創作劇の夕」月に憑かれたピエロ、1955年12月
《eyewitness》より 1955年、高松市美術館蔵 ©Tetsuo Otsuji / Courtesy YOKOTA TOKYO



城之内元晴《シェルタープラン》1964年、城之内元晴エステート蔵



宇川直宏《NO BREATH[Re 702024 -THE 1000 EXPO'70s MOVIES.]》2024年、作家蔵
資料提供：大阪府／©UKAWA NAOHIRO courtesy of ANOMALY



『銀輪』（監督：矢部正男、松本俊夫、樋口源一郎）、
1956年、国立映画アーカイブ蔵



宮永愛子《ポストー景色》2010年、高松市美術館蔵
©MIYANAGA Aiko, Courtesy of Mizuma Art Gallery



赤松音呂《チョウズマキ》2016年、高松市美術館蔵

Art that Moves! the Art of Light, Sound and Movement

第二次世界大戦後の日本では、絵画や彫刻という旧来のジャンルに捉われない美術作品の登場、作家たちの制作方法や活動の場の大きな変化といった出来事を経て、今日に至るまでアートは様々な展開を遂げました。

1950年代、前衛芸術家グループ「実験工房」や「具体美術協会」のメンバーらは、新しいメディアを積極的に取り入れた作品を発表します。彼らにくわえ、「フルクサス」や「ハイレッド・センター」といった、自身が「動く」パフォーマンスやイベントで表現の幅を広げる作家も登場しました。自由出品の読売アンデパンダン展、舞台や映画と組み合わせたイベントや国際美術展、1970年の万国博覧会、各地での野外彫刻展等、発表の場は増加し、素材や表現方法也多面的な様相を見せていきます。その後、テクノロジーの発展とともに光や音や映像の使用がより身近になり、それらを組み合わせたインスタレーション形式の作品や、観客が参加し「動く」作品といった新しい表現も定着していきます。

高松市美術館は、1988年の開館当初より「戦後日本の現代美術」を収集方針の一つとしてコレクションを形成し、展覧会やイベントで気鋭のアーティストたちを積極的に紹介してきました。本展では、当館のコレクションを軸に、日本の現代アートの歴史と展開を「動く」をキーワードに振り返ります。アーティストたちの絶えざる新しい挑戦を、「動く」作品を通してお楽しみください。

出品作家(予定)：饗嘔、青山悟、赤松音呂、秋山邦晴、飯川雄大、池田亮司、諫山元貴、石田尚志、伊藤隆康、井上涼、宇川直宏、大辻清司、小沢剛、加藤翼、金沢健一、河口龍夫、北代省三、工藤哲巳、鯉江良二、鴻池朋子、後藤映則、さわひらき、下道基行、城之内元晴、関根伸夫、高松次郎、多田美波、田中敦子、田中信太郎、束芋、中西夏之、名和晃平、藤本由紀夫、松本俊夫、宮島達男、宮永愛子、森村泰昌、ヤノベケンジ、山口勝弘、山本圭吾、吉田克朗、ヨシダミノル、吉村益信



田中信太郎《ハートのモビール》1974年、高松市美術館



鴻池朋子《Wolf Bench 一Takamatsu》2026年、高松市美術館蔵 ©Tomoko Konoike



ヨシダミノル《シンセサイザー・ジャケット #04》
2000年(#01:1974年制作)、個人蔵

表面図版❶北代省三《モビール・オブジェ 回転する面による構成》(部分)1953年、高松市美術館蔵 ©YOKOTA TOKYO／❷中西夏之《コンパクト・オブジェ》1968年、高松市美術館蔵 ©NATSUYUKI NAKANISHI／❸下道基行《津波石 #04》2015年、高松市美術館蔵／❹藤本由紀夫《EARS WITH CHAIR (on the wall)》1990-93年、高松市美術館蔵／❺後藤映則《Numbers #01》2017年、高松市美術館蔵／❻石田尚志《正方形の窓》2015年、高松市美術館蔵 ©Ishida Takashi／❼田中敦子《電気服》1956/86年、高松市美術館蔵 ©Kanyama Akira and Tanaka Atsuko Association 撮影：加藤 成文／❽山口勝弘《Kiss》1968年、高松市美術館蔵 ©The Estate of Katsuhiro Yamaguchi／❾さわひらき《eight minutes》2005年、高松市美術館蔵 ©Hiraki Sawa Courtesy of Ota Fine Arts／❿ヤノベケンジ《ミニ・アトムスーツ》2003-13年、高松市美術館蔵 ©Kenji Yanobe／⓫宮島達男《Counter Line No.1》1988年、高松市美術館蔵 ©Tatsuo Miyajima

同時開催
第3期コレクション展 会期：9月30日(水)～12月27日(日)

アクセス

JR四国：高松駅下車、徒歩約15分
ことでん：瓦町駅または片原町駅下車、徒歩約10分
路線バス：紺屋町または丸亀町参番街東館下車、徒歩約3分
高速バス：県庁通り下車、徒歩約8分
駐車場：美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)
*駐車場の混雑状況については「どこ駐車ナビ高松」で確認いただけます。



高松市美術館
TAKAMATSU ART MUSEUM

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel. 087-823-1711 www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/

